

議会だより入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN



初の予算特別委員会

3月定例会

平成11年度一般会計予算	2
平成10年度一般会計補正予算(7号)	4
請願・陳情のゆくえ	
一般質問～町政を問う(12議員)	6
議長談話・選挙管理委員会日程	19
委員会レポート	20
各種団体・傍聴席からひとこと	22

No.109

1999年5月27日
(平成11年)

発行／入善町議会

編集

入善町議会広報編集特別委員会
富山県下新川郡入善町入善3255
☎0765(72)1100 ㊟0765(72)4711

向けた町づくり

度一般会計予算115億570万円

芦崎保育所建設着工

3月定例会は、3月2日から19日までの18日間の会期で開かれた。県下の町村議会に先駆け、予算特別委員会を設置。3月11・12日に平成11年度一般会計予算審議の結果、否決された。

3月18日に本会議を開き、議案第5号入善町一般会計予算案を撤回し、議案第38号で一般会計予算案を一部修正して提案され、予算特別委員会及び最終日の本会議で可決された。

厳しい財政の中にあつて、財源確保に、町債の発行と、基金取り崩しの予算となつた。慎重に審議した結果、全議案を原案どおり可決した。

歳入の特徴

景気の低迷や恒久的減税などにより、町税や地方交付税の増収が期待できないことから、恒久的な減税の補填措置として復活した地方特例交付金などで財源確保に努めたが大変厳しい財政状況である。

繰入金は、ふれあい交流

プラザ（仮称）建設、デイサービスセンター、保育所建設など大型事業をはじめ下水道、道路改良など生活関連基盤整備に充てるため、財政調整基金3億8千万円、町債の元利償還金に充てるため、減債基金から4億円を取り崩した。

町債は、大型プロジェクトに伴う地域総合整備事業債、減債補償債など16億2800万円を計上している。

歳出の特徴

歳出に見合う額の確保が困難なことから、多額の町債の発行と財政調整基金、減債基金の取り崩しを余儀なくされ、不要不急の徹底した行政経費の節減合理化に努めた。

特に、より一層行財政改革と行政サービスの向上を図るとともに、報償費、旅費、需用費などの経常経費の見直しを行い、最少の経費で最大の行政効果が得られるよう努めた。

以下、各事業について町民総合計画で策定している4つの施策の最重要課題に基づき説明する。

笑顔があふれる健康のまちづくり

ふれあい交流プラザ（仮称）建設事業費

(15億4553万円)

町民の健康増進、ふれあい交流、情報推進などの中核的施設として建設着工に入る。

町営バス運行事業費

(2605万円)

デイサービスセンター建設事業費

(2億9322万円)

芦崎保育所改築事業費

(2億643万円)

福祉施設入所措置費

(3億3733万円)

介護保険事業費

(13228万円)

在宅介護支援事業費

(1億1034万円)

保育所運営費

(8億771万円)

2000年国体事業費

(1415万円)

少子、高齢化が進展する21世紀を控え、保健、医療、福祉の連携を図り、健康福祉施設の整備と子育て支援対策や児童の健全育成の充実を目指す。

また町営バスの運行や2000年国体に向けた準備

未来に 平成11年



芦崎保育所完成想定図

態勢の整備と生涯スポーツの振興など総合的な事業の推進に努める。

香り高い文化の
まちづくり

桃李小学校プール建設事業費 (8500万円)

黒東小学校大規模改造事業費(第二期) (1億8500万円)

教育用コンピュータ導入事業費 (23082万円)

いじめ防止対策費 (356万円)

国際交流推進事業費 (863万円)

下山芸術の森企画展示事業費 (752万円)

町民会館管理運営費 (9294万円)

桃李小学校プール建設や黒東小学校大規模改造第二期工事など学校教育環境の整備を図るとともに、教育用コンピュータの導入により、情報化に対応した教育の推進をする。

又、新しい地方文化の発信基地として魅力ある美術企画

展や、コンサートなどを開催し、芸術、文化の振興を図るとともに国際化時代に対応した国際交流事業に取り組む。

自然を生かした
うるおいの
まちづくり

幹線道路改良舗装整備事業費(3路線) (1億7037万円)

道路改良舗装事業費 (1億4500万円)

中央通り線整備事業費 (3922万円)

公共住宅整備事業費(設計費) (4083万円)

下水道整備事業費 (2億2926万円)

防災対策事業費 (834万円)

情報化推進事業費 (6440万円)

幹線道路整備計画に基づき、平曾川国道線など3路線の整備を推進する。

又、東町住宅建設のための設計費を計上するとともに防災無線機の導入や自主防犯組織の育成並びに高度情報化に対応した事務の〇

A化を促進する。

未来にはばたく
活力ある
まちづくり

生産調整推進対策事業費 (1億1557万円)

土地改良区事業負担・補助金 (1億4897万円)

さわやか漁村海岸整備事業費 (3億7342万円)

漁港改修事業費 (7648万円)

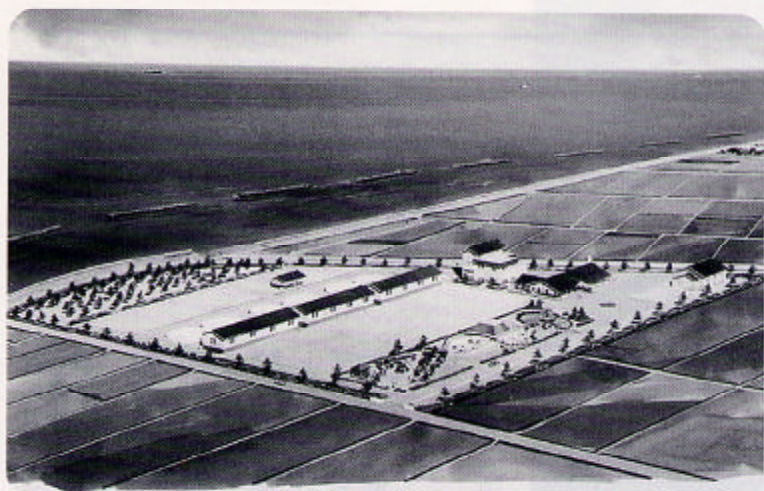
中心市街地活性化計画策定費 (1064万円)

商工業振興事業費 (2億9706万円)

農業従事者の高齢化、担い手不足、米の関税化など農業環境は大変厳しいことから、引き続き町独自の「とも補償」の助成、特産物の振興など農業経営体質強化への施策を積極的に推進し、所得の向上を図る。又現況下における景気低迷に対応した融資制度の拡大や中心市街地活性化基本計画を策定し活力ある商店街づくりに取り組むなど商工業振興対策を積極的に支援する。



さわやか海岸整備事業



入善町浄化センター想定図

平成10年度

一般会計補正予算(第7号)

3月2日の定例会初日に提案された平成10年度一般会計補正予算は国、県の確定に伴う事業費の調整や寄付金の積立などを主な内容として、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ4825万円を追加し、総額を109億9382万円とした。

寄付金5億を積立

富山県漁業協同組合連合会から寄付金5億円のうち、地域活性化及び漁業振興対策として2億円を財政調整基金に、3億円を漁業振興基金に積立るものである。(5億円)

身体障害者補装具等 扶助費を増額

障害者にやさしい施策が求められていることから、補装具や日常生活用具給付扶助費等

の増額調整をするものである。

(30091万円)

県営土地改良事業費等を増額

国が景気対策のため大幅な工事費を追加したこと、これらの土地改良事業費にかかる負担金ならびに補助金を増額補正するものである。(48220万円)

地区公民館に補助金

コミュニティ活動の場として活用される地

区公民館分館の整備に対して補助するもので、今回は東狐農愛地区公民館に助成した。

(400万円)



完成した農愛地区公民館

議員提出議案

次の決議を原案のとおり可決し、国へ提出した。
 ☆地方分権の実現に関する決議

地方分権に対応した地方議会の活性化を図るため議会の自主性強化、議会の議決権の拡大、議員の政策立案・審議能力の向上の実現についての決議。

舟見中学校組合議会議員決まる

舟見中学校組合管理者の入善町長から任期満了による組合議会議員の選挙要求があり、入善町選出議員として、次の7名が当選された。

- 大林 政雄 舟見 1068・1番地
- 水野日登志 中沢 28番地
- 小森 正雄 舟見 244番地
- 大潮 輝明 野中 503番地
- 坂東 久男 西中 180番地
- 芹沢 稔人 舟見 371番地
- 山本 修治 舟見 1531番地

下山水組合議会議員決まる

下山水組合管理者の朝日町長から任期満了による組合議会議員の選挙要求があり、入善町選出議員として、次の6名が当選された。

- 腰本 一郎 墓ノ木 355番地
- 坪野 利則 下山 1118・2番地
- 鍋島 賢治 下山 733番地
- 西島 一男 小杉 787番地
- 池原 隆 藤原 130番地
- 山崎 伸一 古黒部 86・1番地

みなさんの請願・陳情のゆくえ

今定例会に提出された請願5件・陳情3件の審査結果は、次のとおりである。

- 遊漁船等のけい留地の確保に関する請願書
採択
- 消費税を3%にもとすことを求める意見書
についての請願書……………継続審査
- 舟見リゾート西線道路の延長についての請願書……………採択
- 舟見コミュニティ線の拡幅改良についての請願書……………採択
- 町道小摺戸若栗新線の拡幅と排水路の暗渠化についての請願書……………採択
- 庄助川支流排水路の改修についての陳情書……………採択
- 防潮林設置に関する陳情書……………採択
- 「JR労使紛争の早期解決を求める意見書」の採択についての陳情書……………継続審査



賑った入善町フラワーロード

一般質問

第14回定例会

町政を問う

12人の議員が登壇

3月議会の代表・一般質問は8日・9日の2日間で行なわれ、今回は12人の議員が質問をした。

町民総合計画ブリッジプランが盛りこまれた予算議会とあつて、多くの傍聴者があり、盛況であつた。主な内容は次のとおりである。

- 北陸新幹線と今後の対策について
- 新年度予算の重点施策について
- 新総合計画について
- 福祉施策の展開について
- 臨時職員についての町の考え方について
- 少子高齢化社会の対応策について
- 2000年国体への対応について
- 町営バスの運行について
- 国民健康保険税の引き下げについて
- 情報化推進事業について
- 21世紀へ向けた新農業基本法について
- 入札に関する町長の基本姿勢について

北陸新幹線建設に伴う

在来線対策を問う

町長

県へ出したら5条件の完全実施を迫り地域振興対策と上局に波及的に働きかける

町長の政治姿勢について

問 町長は就任以来、公正、公平、開かれた政治を目指すとの口癖であるが、ふれあい交流プラザ（仮称）建設事業の見直し、建設業者の選定策に、議会意志を蹂躪した言行極まる、と見受けられるが。

米澤町長 ご指摘の通り。就任以来、機会あることに申し上げている如く、初志貫徹の気概は毫も変わることもなく、町政推進にあたっては、町政推進にあらわしているとお負ししている。

問 県下市町村首長の多くは、一党一派に偏せず無所属、或いは住民党として、自活行政に精進されているが、町長は自民党から離脱の意志なきや、を問いたい。

町長 国政をあずかる自民党に属することが、予算獲得上、極めて有利との考えから、又選挙にあたって自民党として町民多数の同意を得た。よって自民党籍離脱の意志のないことを言明し、ご理解を願いたい。

問 町民に夢と希望を与えるべき11年度予算は、前年度対比4・7%増、7特別会計を併せ、総額189億9644万円と過去最大となっているが、この予算は、町民のニーズにどう対応しているか、又基本姿勢に忠実に編成されたか。

町長 21世紀を展望した総合的町づくりの実現を目指した施策の推進、社会の情勢、町民ニーズの変化に対応すべく、又最少の経費で最大の効果を狙った。

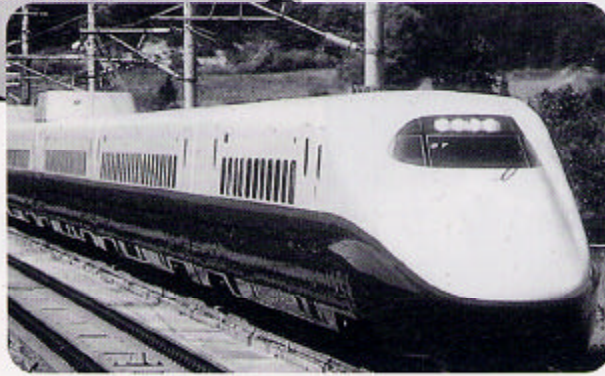
町長 町としては、国、県、JRからの高圧的条件を演じて呑まざるを得ない苦汁の選択とご了解願いたい。今後は先に県へ示した5条件の充足を迫り、関係地区

北陸新幹線の今後の対策について

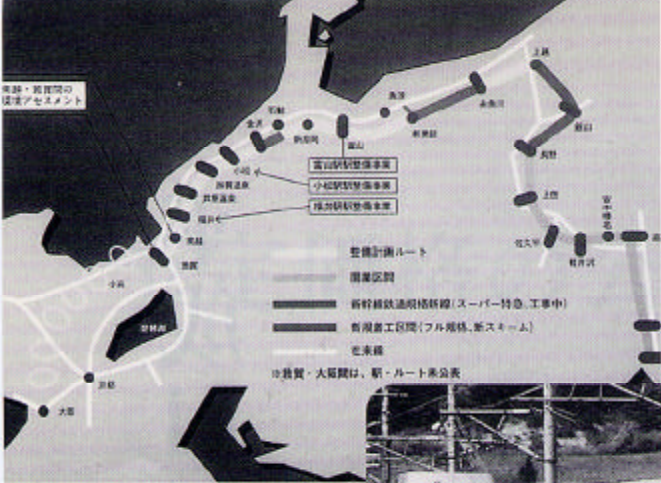
問 北陸に光を！国土の均衡的発展を命題とした新幹線の登場は、歓迎すべき点もある反面、在来線沿線住民の犠牲の上に胡坐をかいた斬り捨てご免のアメリカの最たる第3セクター化が決定的である。先の在来線存続希望の2万2480名の悲願、如何ように促しているか。町長の緊縮一番、決然たる態度をお示し願いたい。

町長 町の町有財産中、庁用車、建設機械等について、これらについて如何ような管理体制を敷いているか。本議会冒頭に提出された、専決処分一号に見る如く自動車の接触事故については憂慮に堪えない。事故防止についての教育対策は？

町長 他の町有財産同様配属部署が直接厳重管理下に置いている。又庁用車の事故についても細心の注意の喚起につとめている。神ならぬ身とは云え「万遺漏なきを期す」と誓いを新たにするところである。ご賢察を乞う。



北陸新幹線計画図



平成11年度予算の

重点施策は何か

町長

町民が夢や希望に満ちた、活力と豊かさが実感できる政策に努める



機構改革に伴う新設課

問 財源確保に町債の発行と財政調整基金、減債基金より7億8千万円を取り崩しての予算となったところであり、厳しい財政のもとでの重点施策について問う。

町長 平成11年度予算については財政構造改革の基本的考え方を堅持し、限られた財源の中で、経費の一層の節減合理化、効率化、重点化を図ることなどを基本方針として編成に努めた。主たるものは、ハード面で少子・高齢化対策としてティサービスセンターの建設や芦崎保育所の改築事業、地域間交流を政策課題とするふれあい交流プラザ（仮称）の建設などである。一

方、ソフト面では海洋深層水を活用した水産業など、地域振興策を盛り込み積極的な施策に取り組む考えである。

機構改革に

ついて

問 新設する特定政策推進室で意志決定された政策が、企画広報課企画調整係との間で適正に遂行される

か、業務の流れが複雑多岐となり、責任所在が不明確となり、屋上屋を架すとなり、能率低下につながるのか。

町長 今回の機構改革は、

行政需要の変化により新設した特定政策推進室は、時間的な設置であり、その目的が達成されれば廃止する。その期間は、長くて2年と考えている。この機構改革による事務に混乱を招き責任の所在が不明確になったり、能率が低下しないかという指摘については、助役を中心とした関係課連絡会議を開催し混乱を生じないように努める。

農業の担い手育成、 確保の施策について

問 農業従事者の高齢化や継承者の減少、コメの関税化などで農産業全体

が危機に面しており、強い農業基盤の確立にどのような取り組みを考へるか。

大角農林水産課長 町は、担い手の確保が最重要課題と位置づけ、担い手推進協議会や、農業委員会の組織を通じて、担い手の発掘に努力しているところであり、一方条件面では、農地の流動化や集積に配慮し、技術を高めるための実践研修事業、規模拡大支援事業や利子補給、さらにはスーパー11資金などの農業経営基盤強化資金の運用もあわせて積極的に支援している。これらにより昨年は2名、本年は4名の新規就農者があり、担い手の育成、確保に努めている。

新総合計画の基本構想と

現計画の関連を問う

町長

21世紀への架け橋となる 「ブリッジプラン」を策定



町の台所を決める予算書

問 新総合計画の基本構想が平成11年度で議会の議決事件となるが町長の考えを問う。

町長 現総合計画は平成12年度まで残り2年となり、計画の実現に向けローリング方式で財源調整を行い実施計画に基づき努力している。新総合計画は社会経済環境の変化に即応すべく、21世紀の架け橋となる「ブリッジプラン」を策定した3つ

のプロジェクト「スマイル21健やかプロジェクト」「フロンティア21地域情報化プロジェクト」「アクア21海洋深層水活用プロジェクト」、このテーマは「超高齢化」「高度情報化」「地域活性化」に対応するものであり、新総合計画における新しい町づくりの基礎と位置づけている。町の最上位計画であり将来予測地域の独自性を持つ計画とする

ため総合計画審議会、個別事業推進計画委員会を設け、調査検討を重ね、計画策定する。議会で十分な審議をお願いしたい。

問 機構改革で「組織統合」「職員定数」「職員意識」の改革が実施されるが具体的に説明されたい。

「ワンストップサービス」と「説明責任」等
サービス行政の推進
を図る

町長 行政需要の変化に対応した機構に改革する。組織の統合は「健康福祉医療の統合」「道路整備担当の統合」「企画立案広聴部門の統合」を図り、「ワンストップサービス」が出来るようにした。これからも、組織の見直しを検討していく。職員定数削減について新年度3名減らし、3年毎に見直し減員していく。臨時職員については職員に準じた処置と身分保証を見直ししていく。

職員意識改革については、事務事業の目標管理と事業評価システムを導入する。全体目標、個別目標を

明確にし、目標達成度を評価する民間手法に近づくよう意識改革を進める。

新年度財政計画は十分検討してあり健全財政を維持

問 新年度予算11.5億円の財政計画は健全であるか計画性弾力性積極性等を具体的に問う。

町長 景気低迷、減税により町税が伸びないので、町債の発行と基金の取り崩しをした。

弾力性を見る経常収支比率、76%実質収支比率5%台と予測でき標準財政である。また公債費残高11.6・8億円を11年度末見込んである。

しかし公債比率17・1%起債制限比率9・5%と県下の平均値を下回っている。町債の発行は積極性から見て必要であるが有利な起債条件に留意している。計画性、歳入出予算と総合計画の差違について計画を軽視ではなく細部の積上げで差額が生じている。以上の点を総合し町財政は健全を維持しているものと認識している。

平成11年度の

予算編成基本方針を問う

町長

地域の特性を活かした豊かで安心できる魅力あるまちづくりを進める

地域産業の活性について

問 農業を取り巻く環境が厳しくなっている。観光施策とリンクさせた活性化策に期待する。

町長 初年度は約5,000人、昨年は延べ10,000人がチューリップフラワーロードを訪れており、春の一大イベントとして、夜間のライトアップ、花摘み体験、切り花の販売、園芸教室さらには観光案内、宿泊相談等、一層の充実を図りたい。また、特産物の販売所や、チューリップ染めなどが体験できる場所の確保と8号線バイパス工事も進んでおり、将来に向けて「道の駅」の設置も視野にいたれた地域間交流の活性化と多くの消費者や観光客が立ち寄れる拠点づくりを進めたい。



新川地域広域介護保険対策協議会事務室

問 過去にない大型・積極型予算となっているが、多額の町債発行や財政調整基金、減債基金の取り崩しで成り立つ11年度予算は、将来、町民の重い負担とならないか。

町長 厳しい財政状況下で住民ニーズに応え、地域経済対策を推進する中、財政の健全化にも配慮し、21世紀の根幹となる社会資本づくりに向け、町民総合計画の着実な推進を最重要課題とした。

新年度は、まさに、21世紀を構築するいくつもの大型事業に取りかかることから、国、県の補助金の確保はもとより、地方交付税措置のある良質な起債の活用にも努め、併せて、財政調整基金、減債基金、その他の

基金を活用しながら健全財政の堅持に努めた。町債の未償還残高は、11年度末で116億8674万円と見込んでいる。また、公債比率は17.1%となるが、起債制限比率では、11年度末で9.5%と推計しており、財政再建団体になることはないと確信している。

介護サービス基盤の施設整備展開は

問 介護保険制度スタートに向けて、施設整備や人材確保の計画はどうか。

町長 町で最も不足していると考えているデイサービ

スセンターは、平成12年4月施行の介護保険に併せ、B型で15人、E型で8人を受け入れできる施設として、新年度で建設する。入所希望が増えて来た特別養護老人ホームについては、60名を超える待機者があり、介護保険導入時点での受け入れについて心配している。今回見直した、町の総合計画のブリッジプランでは、平成12年度中に、入所者50床、ショートステイ20床の特別養護老人ホームの建設に取り組んでいく。今後は、一市三町の一部事務組合で取り組む介護保険事業計画の中で、需要に応えられるよう、施設整備に努めたい。

臨時職員について

町の考え方を問う

町長

職種にあわせた処理の改善に努めていく



ホームヘルパー室（武村福祉会館）

問 入善町職員定数条例の一部改正について提案され、現行定数343名を改正後定数340名とする事になっているが、現行職員数は328名で12名欠員している。しかし、平成10年度で採用されている臨時職

員は109名もいる。定数を削減し臨時職員で賄う考えなのか、また12名の欠員について町はどのように考えているのか。

鬼原総務課長 定数との差12名については、文化振興財団、体育協会に専門の職

員が6名雇用されている。これは町から給与が支払われている残り6名について、今後の事を考え余裕を持ちたい。臨時で賄う事については、短期的に利用するが、かといって、無制限に増やすことはつつしみ、これらに対し慎重に対処していく。

問 ホームヘルパーの処置をどの様に考えているのか、社会福祉協議会に身分を移管する考えがあると聞くがどうなっているのか。

町長 ホームヘルパー事業の重要性は高まると予想され増員も行っていく必要があるが、常勤ヘルパーを多数雇用することは、職員増加につながり行政改革にも反する。今後、より効果的なホームヘルプ体制を整えていくには、民間への委託を検討する時期にあると考えている。

社会福祉協議会への移管 については協議しているところであり、時期は、平成12年4月を目標に受け入れ体制の整備など協議し、身分移管においても、現在の賃金等の条件を維持するよう努める。

問 JA、民間のヘルプ事業との連携をどの様に考

えているか、また、託老所についてもヘルパーの必要性があるのでは。

上田福祉課長 JAの事業も対前年比100%を越える申し込みが増えており、民間のヘルパーも需要が増え、JA、町がやっていない夜間、休日に対応しているので貴重な存在である。

介護保険施行に併せ、指 定事業者の登録をしなければ介護活動ができないので登録を薦め、協力を願っていきたい。

託老所については、具体的 な計画はしていないが、できれば各地域の公共施設を利用し、気軽に集まれる場を提供し、そこにヘルパーの派遣を考えており、地域、社協と協議し対応していく。

問 ふれあい交流プラザ（仮称）の中にヘルパス（仮称）の部屋は確保されているが、社会福祉協議会の事務所の移転は可能なのか。

鍋谷環境保健課長 ヘルパス（仮称）と同時に社協の事務所入居のスペースは確保できると考えており、現在ヘルパーの身分移管も含めて、入居について協議を進めている。

21世紀に向け

最優先させざる仕事は何か

町長

少子・高齢化施策に真剣に取り組む



工事が進む国道8号バイパス

問 21世紀に向けて、最も大切な事は、「地場産業の育成と優良企業の誘致」「中央商店街の活性化計画」「特別養護老人ホームの拡充と子育て支援事業」を深層水の前にやるべきでないか。

町長 町長の基本方針を伺う。

町長 町民総合計画の着実な推進に努め、ふれあい交流プラザ、デイサービスセンター建設、芦崎保育所、桃李小プールなどに取り組む。また、介護保険や在宅介護支援事業などソフト面にも意を用いている。

問 あなたは選挙公約で「入善町は借金タラタラで民間企業なら倒産である」

と述べられたのだから、借金を減らす財政運営を実行すべきでないか。入善町は苦しい中でも健全財政を堅持していると思っているとすれば町民にその様に述べべきだ。

町長 町税は0.7%減、地方交付税は2.3%減の見積りとなった。地方特別交付金で前年度ベースを確保したが歳出に見合う額の財源確保が困難で、多額の町債発行と財政調整基金、減債基金からの取り崩しを余儀なくされた。

問 今後、より専門知識と実戦力が問われる常勤ヘルパーの身分をどのようにするのか。また、多様化する

保育ニーズの対応策、並びに保育士が幼児と老人を共通してお世話をする「託老所」を新設する考えはないか。

芦崎保育所に、

地域交流・子育て

支援室を設置

町長 ヘルパーの身分保障は社協と十分協議する。乳児保育7カ所、障害児保育3カ所、延長19時迄3カ所、居残り17時30分まで7カ所、18時まで4カ所実施する。託老所併設は法的に難

しく、芦崎保育所で地域交流・子育て支援室と称する部屋を設けて対応したい。

問 幹線道路の進捗状況は遅れていないか。

松島建設課長 国道8号バイパスは新黒部大橋を含む暫定供用区間の完成は平成14年度末と聞いている。

問 県営土地地の地元負担をなせ軽減しないのか。

農林水産課長 新年度から住居連帯区域に額を定め助成する。

再質問 町長は入善町の財政は健全財政と思うか。

町長 大丈夫だと思つている。

2000年国体の対応は

町長

国体は半世紀に一度の大会であり

町民あげて歓迎する



力がこもる国体実行委員会

問 国体は、入善町を全国へ無料でPR出来るチャンスだが、その対応は。

町長 相当量の業務があり、役場全職員を対象とした実施本部を設置し、円滑

にやりたい。

問 今年の国体前年のリハール大会には1000人以上の方が来町されるが、万全な対策がなされているか。

町長 町民総参加によって21世紀を迎えるにふさわしい大会にしたい。町民及び関係各位の協力をお願いしたい。

地場産業（地元業者）育成策は

問 県では「富山の食の伝承人」として選定する事業を平成11年度から始めるが入善町の対応は。

町長 昨年の「食祭とやま98」を一過性のイベントで終ることなく、この成果をつなげるために、食文化に限らず、その技能や特技にたけた人材を発掘し、育て、継承することは町の財産と考える。

問 ドイツにはマイスター制度という独自の技術者の保護制度がある。せめて町でも各地区一人位のマイスター制度を作る考えは。

町長 ドイツのマイスター制度などと併せて研究し、

検討したい。

行財政改革に

ついて

問 とかく行政組織は「慎重重視」「従割り」「親方日の丸」の体質が今でも残っている。定数の3名減はまだまだ甘いのではないか。

総務課長 ご存知のように地方分権や介護保険制度の施行、保育メニューの拡大など行政の守備範囲は益々拡大している。しかし仕事が増えても事務のOA化により人を増やせない方向で対応することになっている。

問 職員の意識改革や人材育成書を作成する考えは。

総務課長 ムタのない行政、サービス行政、信頼される行政の担い手としての自覚を職員に促す。複数の課が連携を取りながら事務事業を進めていく。人材育成計画については職員には今までの行政能力に加え、先見性、政策形勢能力など新たな時代に的確に対応した能力が求められている。

町営バスの本格運行はいつか



期待される町営バス

町長

本年六月から運行する考えである

問 昨年10月と11月に試行運行をしたがコースの設定等に問題がなかったか。

町長 まず1便平均4・1人の乗車人員の少なさは、利用者の大半が週1〜2回程度の利用のところ、毎日運行したところである。又、総合体育館をターミナルとして休憩や時間調整を行なったことにより、運行の迅速性を失い、乗客の要望に十分に応えることができなかった。それとフリー乗降のPR不足である。

問 本格運行についての基本的な考えかたは。

町長 今年6月からの運行を目指している。野中線、

小摺戸線のほか、新たに飯野線、横山線を加え、町内全域を4路線、二系統で結び、利用希望の高い「ふれあい温泉」へ1時間以内に行けるダイヤを配慮し、利用者の立場に立つて検討する。

問 運行形態は、隔日運行、一日3往復とし、お年寄りにわかりやすい停留所にする。ステップリフトを装備した、高齢者、障害者にやさしい車輛を導入する。

さらに、割戻回数券や障害者の方には半額、介護に当る方には全額の減免制度も考えている。

下水道事業の事故防止対策は

問 工事にかかわる関係者が安全施工の精神に徹するとともに、発注者、受注者の安全対策充実、事故発生防止に万全な対策が必要であり、どのような対策をとっているのか。

本多下水道課長 事業費の増額により、工事発注に時間を要し、現場の管理、監督は万全とはいかなかった。今後は、10年度を踏まえ、十分に対応できるように考えていく。

事故防止対策について

は、安全施設の配備はもちろん、工事調整会議、あるいは受注者と町が関係地元地区での説明会を通じ万全を期して工事にあたる考えであり、指導もしていく考えである。

予定価格の公表は全国的

流れである

町長

公表を前提に取り組みたい



問 予定価格の事前・事後公表は全国的な流れである。徹底した情報の公開を求める。

5億円以上の大型工事は、制限付き一般競争入札を採用してきたが、ふれあい交流プラザ（仮称）建設工事に、なぜ採用しなかったのか。入札・契約制度改

革の早期実施を求める。

町長 公表を前提に取り組みたい。

林企画財政課長 平成10年3月31日までの試行であり入札方法を見直した。

国保事業の健康フェスティバル

財源はある
国保税を引き上げよ

問 入善町の国保加入者は、生活保護基準なみの166万円程度の所得で、18万5000円もの国保税を負担しなければならぬ。

また、国保加入者の70%以上の世帯が所得の10%を超える「高い国保税」を負担している。かつてない大不況のもとで多くの町民の間に政治へのやりきれない怒りが満ちている。

米年4月から65歳未満の国保加入者は、国保税に介護保険料が上乘せされ、負担は一層重くなる。1997年度国保会計は、1億3900万円の赤字であり、基金残高は9800万円である。財源はある。国民健康保険税を引き下げるべきである。

町民を守る立場で一般会計からの繰り入れを増額すべきである。

一回の負担を軽く

するために納期回数を増やす考えはないか。

環境保健課長 10年度の決算状況や医療費の動向などを見て十分検討したい。納期の分割は11年度を目標に十分検討したい。

町長の責任で公害防止協定を

問 町は、担い手育成畜産基盤総合整備事業を推進しているが、多額の投資は畜産農家を苦しめることになりかねない。

一、事業主体は県農業公社だが、町は責任をとるか。

二、農業共済新聞によると、畜産に起因する問題のうち、悪臭関連が全体の60%を占めている。入善町公害防止条例に基づき、町長の責任で公害防止協定や覚書きなど環境保全対策を立てるべきである。

町長 対象農家の経営分析を行うなど、適切な措置をとっていかねばならない。現地を調査したい。

問 議会に調査結果の報告を義務づけている条例に従い報告されたい。

2000年問題

の危機管理は

町長 国、県の動向を調査し、対応する



庁舎に設置した行政情報提供システム

問 フロンティア21、地域情報化プロジェクトの今後の計画はどうか。

町長 近年の急激な情報化の進展に対応するため、行政の情報化と地域の情報化を密接に関連づけながら、進めていく。

情報機器を活用した行政事務や行政運営の効率化、高度化による住民サービスの向上を図るために行政の情報化推進の核として、自治体ネットワーク施設整備事業を進め、町と町民をネットワークで結ぶため、ふれあい交流プラザ（仮称）を地域情報化推進の基地としたい。

総務課長 2000年4月から施行される、介護保険法とのリンクも考えながら対応していきたい。

問 庁内LANの計画と活用方法をどう考えているか。

町長 パソコンによるネットワークを構築し、庁内におけるデータの共有が可能になるため、情報の電子化、情報交換の迅速性、正確性、ペーパーレス化などの推進を図りたい。また、町のホームページからの各種情報の発信や、電子メールの活用により、関係機関や、町民との情報交換、国や県などの各機関から発信される

様々な情報を迅速に処理対応したい。

一方、行政の信頼性を確保するため、個人情報の保護や、情報の無秩序な乱用につながらないように、利用状況の監視を行う。

問 2000年問題対策はどうか。

町長 住民票など諸証明の発行や、税計算事務など、町民に直接関わるシステムについては、問題をすでにクリアしているので、問題がない。その他、一部のシステムでは、修正を必要としているが、本年の10月を目途に、改修作業及び確認作業を終了するように、業

務を進めている。

また、町内の関係機関や民間企業への働きかけについては、国・県の動きを見ながら、今後調査していきたい。

活力ある工業振興は 老人パワーの活用を

町長 技術・能力・経験を大いに活用したい



食料安定供給をめざして

活力ある工業振興は老人パワーの活用を！

問 活力ある工業の振興に経験豊かな老人力を活用すべきであり、特に入善シルバー人材センター等を活用し、超高齢者社会に寄与する技術、新製品の開発をすべきではないか。

町長 ご指摘のとおり、超高齢者時代を迎えている。本年1月1日には65才以上6454人、22.1%と云う高い数値になってい

る。失業者の急増している現在高齢者が長年培って来た技術や知恵、能力、経験を生かすことなく無為に日々を過している人が多いのも事実であり、これを生かすことは人的資源の有効な活用であり、高齢者の生きがい対策となり、地域の活性化につながる。

シルバー人材センター
登録会員346人！
受託額1億1383万円！

問 今後何を研究、開発するのか。

町長 シルバーワーククラブなどの整備をし、製品開発や特殊技能を持つている集団に町が活動費の補助などを行っていかねければならないと考えている。現在は健康により製品開発等を目標に入善ブランドの育成に、努力し老人力の知的パワーを大いに活用したいと

考えている。

38年振りの農業基本法改正

問 新農業基本法は21世紀に向けた日本農業再生に向けて何をめざしているのか。

町長 新基本法は38年振りに抜本改正されることになり、食料の安定供給と農業、農村の多面的機能を求めている。新基本法では国民全体の視点に立つて抜本的に見直し、経営感覚に優れた効率的安定的担い手の確保を通じ、我が国農業の有する力が最大限に発揮され、安全で合理的な価格での食料の安定供給と農業、農村のもつ国土、環境の保全、水資源のかん養、緑や景観の提供、地域文化の継承等の機能の発揮が期待されている。

問 今後の農業の指針としてどう考えるか。

町長 本町が全国に誇れる、山や川、海など地域の特性を生かした農業に視点を置き「生産物づくり」「組織づくり」「人づくり」など、夢のある農業の展開に努めていく。

入札に対する基本姿勢を問う

町長

適正な競争を実施し、不正を起ささない



入札状況

問 入札に対する基本姿勢について伺う。

町長 「低コスト」「高品質」な建設物の確保と、「公平さ」の確保を考える必要がある。

適正な競争の実施は不正が起きにくく、企業技術改革や工事価格の引き下げ等の効果がある一方で、手続事務の増加、工事品質の低下などが考えられる。

工事の内容、発注者の態様、受注業者の態様など、多様な入札方式の中から、最善の方式を選択することが重要だと考える。

ふれあい交流プラザ

(仮称)の入札方式は

問 これまでの入札方式の変更理由とふれあい交流プラザ(仮称)新築工事の入札方式について伺う。

町長 これまでの「制限付き一般競争入札」は制度として導入したものでなく、試行方式であったと理解している。

今回のふれあい交流プラザ(仮称)新築工事に関する入札方式については、コストの増大、公平さのバランスを図るとともに、地元中小企業者の育成を熟慮し、検討した結果、意向確認型指名競争入札方式で実

施する。

問 指名業者を事前に公表する考えはないか。

企画財政課長 県は平成10年4月から入札前の公表は行わず、入札結果とあわせて事後公表をしている。当町においても、入札結果とあわせて事後公表を実施している。又、建設省も事前公表をしているが、事前公表は、企業間の談合を助長しかねないという懸念から、現在再検討している。

問 下水道工事の入札方針にはランク付けがないと聞くが。

町長 本町においては、下水道事業においても、土木工事と同様に原則として、

A・B・C・Dの4つのランクを設けている。

Aランクの工事発注基準は3千万円以上

Bランクは2千万円以上3千万円以下

Cランクは2千500万円以下

Dランクは600万円以下、としている。

町民の皆様へ

入善町議会議長

この度の不祥事に対し、紙面を借りて町民の皆様へ一言お詫び申し上げます。
 今回の県議会議員選挙における違反容疑で、議員6名が逮捕・起訴されたことは、町民の議会に対する信頼を著しく損なうものであり、町民の皆様へ深くお詫び申し上げます。

常に、これまでも選挙は法を遵守し特に公明正大であるべきであると、機会あることに、全議員に徹底してきたところでありますが、このような事態を生じたことは、誠に残念であり、議長として責任の重さを、痛感しているところであります。

今後は、議員全員総力を上げて、信頼回復に取り組んでまいりたいと、考えております。

第16回 議会定例会日程

6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	月
17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	日
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	曜日
午後1時30分 本会議（討論・採決）	議案調査日	午後1時30分 午前10時00分 産業経済常任委員会 教育福祉環境常任委員会	午後1時30分 総務常任委員会	休 会	休 会	午前10時00分 一般質問・質疑 委員会付託	議案調査日	午後2時00分 正午 一般質問通告締切 議会運営委員会	午後1時00分 午前10時00分 本会議（提案理由説明） 全員協議会	日 程

入善町議会議員補欠選挙日程決まる

告示日 **6月22日(火)**

投票日 **6月27日(日)**

レポート

3月11、12日の2日間、予算特別委員会が、15、16、17日の3日間、総務、文教厚生、産業建設の各常任委員会が開催され、付議案件を審議した。
以下、委員会の要旨を報告する。

予算特別委員会

海洋深層水活用事業は
専門機関を設置し検討を

深層水の利用事業は慎重な対応を望む

深層水の利用については各委員から、町の将来にとってすばらしい事業になるか、漁業振興に結びつくかなど様々な意見が出された。調査費の予算化は認めるが、事業実施にあたっては調査の結果をふまえて協議を重ねての実施を求める。

ふれあい交流プラザ(仮称)の入札方法は、平成9年には制限付一般競争入札の方式を採用していたが、今回意向確認型指名入札に変更された。どの時点で変更になったのか議会に明らかにされていない。

ふれあい交流プラザ(仮称)の入札方法については、平成9年には制限付一般競争入札の方式を採用していたが、今回意向確認型指名入札に変更された。どの時点で変更になったのか議会に明らかにされていない。今も多くの委員から制限付一般競争入札の方がよいのではとの意見があり、町民に疑惑を持たれない入札方法での実施を強く要望する。

総務

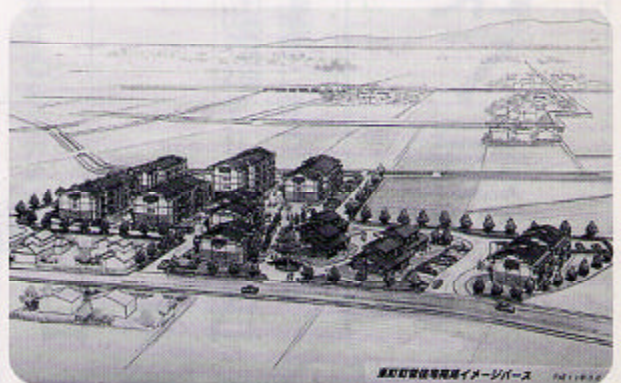
職員定数削減を評価

職員定数条例の一部改正に伴う定数削減を評価

行政改革が厳しく求められている中、職員定数343名を340名に削減し今後も年次的に削減計画を執行することに対して評価するが、主人公は町民であることを基本にサービスの低下につながるような職員の適材、適所の配置に十分留意願いたい。

減税施策による財政運営は慎重に

減税施策は納税者にとっては有り難い話であるが、減税に伴う市町村の減収分を減税補填債として町が借金をしなければならないという制度に疑問を感じているのである。国の制度と言えはそれまでであるが、起債残高が増高し、地方財政を圧迫しているのは、



東町住宅完成予想図

入善町も同じである。交付税算入と言えども、町債に変わりなく、財政の硬直化をまねかないよう、健全財政の運営に一層努力されるよう要望する。

町営住宅再生プランに期待

人口減少の歯止め効果と、市街地周辺地域の振興に重要な役割を担う東町住宅の再生は時宜を得たものと評価する。
入居者ニーズに応え、お年寄りの方々や、低所得の方々が、入居しやすい構造にしたいだくとともに、一日も早い完成を望む。

委員会

文教厚生

特徴ある 児童センターの運用を

国民健康保険制度は自分達の
制度として制度の高揚を望む

国の負担率の改正等によ
り、県の負担金が下がる。

厳しい財政運営は予想され
るので、弱者がこの国保に
集中することを考え、町、
町民共々考えた対応を望む。



オープンした児童センター

育英奨学資金の持つ意義
を十分考え、人間形成の
立場での選定を望む。

この基金の持つ意義を十
分考え、21世紀を背負って
立つ若者の育成資金とし
て、選定委員会で型どおり
の選定以外に、人間形成の
立場での選定を望む。

新築された町児童センター
は、特徴のある運用を期
待する。

新築された町児童センター
は町民から熱い期待が寄せ
られており、特徴のある活
用と運用を期待する。

産業建設

地元業者の育成を望む

下水道・農業集落排水事
業については、地元業者の
育成を十分検討されたい。
入札や契約をめぐる住民
に疑惑を招くことのないよ
う強く要望する。

地域の実情にあった農業
振興対策の実施を

今日の米価の低迷や転作
増大、関税化問題など、農
業を取り巻く環境悪化のな
か、集落型の営農あるいは
中核型の営農等、地域の実

情にあった農業振興対策の
実施を望む。
又、畜産振興の促進を図
る観点から、担い手育成基
盤総合事業の推進を期待す
る。

漁業振興のため有効な基
金活用を強く要望する。

漁獲量の減少や漁業従事
者の減少、高齢化、後継者
不足など漁業が抱える問題
は多い。これらの問題解決
のため、富山県漁連からの

寄付金について関係機関と
協議し、漁業振興のため有
効な活用を望む。
又、漁業振興基金条例、
農業振興基金条例の制定を
検討し、振興策を推進され
たい。

各種団体からひとこと

ふれあい・助けあい・いきがいのある地域づくりを

J A入善町

清水由美子さん



高齢社会が進展している中、高齢者を抱える家族や高齢者自身が「心豊かな生活を実現する」ためのお手伝いを少しでもできればとJ A入善町では「助けあい活動」を事業として実施しています。

高齢者や要介護者を抱えておられる家庭で、家事援助、身体介護サービスを利用したい方（利用会員）がサービス提供者（協力会員）J Aふれあいホームヘルパー）によって受けられるのがJ Aの「助けあい活動」です。

家事援助としては、◆食事の世話や洗濯・繕い・物掃除・整理整頓◆通院や外出の介助・医療機関などの連絡◆代筆や朗読・おつかい・身のまわりの世話など。

身体介護としては、◆家事・排せつ・衣類着脱・入浴などの介護◆身体の清拭や洗髪などのサービスを行います。

J A入善町助けあい組織「つくしの会」は登録ホームヘルパー33名で構成されており、J Aの在宅福祉サービス以外に町や社会福祉協議会などから要請された福祉活動や舟見寿楽苑でのボランティア活動にも積極的に参加しています。

つくしの会員は、社会経験豊かでボランティア精神に溢れている方が多く、利用会員から喜ばれ、次に来てもらうのが楽しみにしています。

また、昨年は援助の必要な方ではなく、元気で留守を守っている75歳以上の人達を対象に、福島地区で、福寿会や地区福祉協議会などの協力を得て「福島ふれあい広場」を実施しました。公民館に集まってもらい、世間話に花を咲かせたり、体操したり、大きな声で歌ったり、民生委員さんにも協力していただいて手作りの昼食を楽しみました。ホームヘルパーによる寸劇や手品に大喜び。帰り際の「何年ぶりやろ、腹かかえて笑ったが、こういう集まり、続けて欲しいわ」と言われ、みんなの身近で歩いていける、こいの場の必要性を感じました。

J A入善町では町や関係機関とタイアップしながら、健康で安心していきいきと暮らせる地域づくりを積極的に進め、介護保険制度にも対応していきたいと考えています。

編集の窓

◇3月議会定例会は、平成11年度当初予算を審議する大切な議会である。

県下の町村議会に先駆け、予算特別委員会を新設し、集中して審議した。

◇多くの町民から注目された政策課題もあり、一日も早く発行すべきでありましたが、県議選の違反事件で遅れたことを深くお詫言申し上げます。

◇議員全員襟を正して町民の信頼回復に全力をあげ、主権者は住民の町政執行に邁進努力する事を誓います。

傍聴席からひとこと



永原 修さん

(神林)

私の傍聴歴は町議会に議席を得た先輩の晴れ姿？を見ようと出掛けたのが動機で、もう二十数年に成りました。その時そこで目にした厳肅な雰囲気と真剣な討議の模様に魅せられ、以来年四回の定例会の期間中に一度は傍聴しようと思がけています。本会議で質問するだけが議員活動とは思いませんが、今期通算六回の定例会で未だたったの

一回しか質問に立たない人や毎回欠かさず質問する方もあるなど、傍聴は有権者が議員や当局の町政に取り組む姿勢を垣間見る事の出来る貴重な機会でしょう。しかし、約五十脚の傍聴席は選挙の前後か余程関心の高い議題の上程が予定されない限りガラ空きなのです。これでは議席も離壇も緊張感が薄くて居眠りしたくなるかもしれません。そこで此の欄をお読みの皆さま

んへの訴えですが、選挙の際に後援会活動などで示された熱意を反映させるためにも、傍聴席から無言の叱咤激励をして、より良い町政の実現を期待しようではありませんか。その為にも、大沢野町議会で試みられ好評と伝えられた「本会議の日曜開催」や全員協議会・委員会の公開なども是非実現して欲しいものです。